

日曜随想



朝の文箱

たい「とうらやましく思いました。南国スペインでは暑い昼間、お店やオフィスを休みにして昼寝し、日が沈むと再び仕事に戻る習慣があります。北の国ドイツに生まれた祖父が太陽の光を浴びることがうれしくて昼間外で過ごす生活スタイルとは違います。1カ

月以上滞在していると、ドイツ、スペイン、その他さまざまな暮らし方が垣間見られ、学校の勉強はおろそかになりましたが、子ども心にそれぞれの文化の違いを学べたように思います。成長するにつれ、普段暮らし日本

の価値観が定着しつつあった私には、日本の紺のスクール水着の私に、祖父が「それは変だよ」と、鮮やかな色のビキニの下だけ履くように促すのです。私は恥ずかしくてカーテンに体を巻き付けて抵抗しました。結局、ビキニの上も着ることで解決しました。日本は小さい頃から恥ずかしい

多様性が増している今の日本では、いろいろな人の考え方を知り、なぜそうするのかを聞く機会が増えてきています。「そのやり方は違う、間違っている」と頭ごなしに否定するのではなく、なぜそうするのかを知ること、その考えを尊重でき、「みんな違うけど人間はみんな一緒」ということに気がつくはず。

鹿兒島に来てから知ったゴーヤ。薄切りしてさつとゆがいてかっお節をのせるのもいいし、洋風ならラタトゥーユに入れても。今のお気に入りには義姉に教わった揚げ浸しです。2枚に切ったゴーヤを卵液に漬けて揚げ、市販のめんつゆに浸せば完成。簡単に苦味も少しぬけて美味です。

東京から来た友人たちを、「大隅のモン・サン・ミッシェル」と私が呼ぶ荒平天神(鹿屋市)に連れて行きました。対岸の開聞岳が見え、素晴らしい景色。海は青く澄み、家族連れがシュノーケルをして夏休みを満喫していました。夏休みは小学2年生から中学生まで、ドイツの母方の祖父母と過ごすのが恒例でした。祖父母は夏はスペイン東海岸で暮らしていて、母はそこへ私と兄弟を送り届けると家に帰ってしまいます。

海に面した祖父母のリゾートマンションにはプールもあり、祖父の「水泳は自分を守る技術」という考えのもと、毎日泳ぎ、水泳は得意になりました。祖父母と過ごすことで、ドイツ語を忘れず思

門倉多仁亜



多様な価値感学んだ夏休み

と、祖父母の感覚の違いが表れる場面もありました。スペインの海岸では女の子はもちろん、大人の女性もトップレスが多いです。私も小さい頃はビキニのパンツだけで遊ぶことに違和感はなかったのですが、小学6年生の夏は違いま

ことやみつともないことを、社会で共有しますが、ヨーロッパにも常識はありますが、多くの事は自分で考えて決める、という習慣があります。どっちがいいとか悪いとかではなく、そもその発想が違

た。日本の紺のスクール水着の私に、祖父が「それは変だよ」と、鮮やかな色のビキニの下だけ履くように促すのです。私は恥ずかしくてカーテンに体を巻き付けて抵抗しました。結局、ビキニの上も着ることで解決しました。日本は小さい頃から恥ずかしい

かどくら・たにあ氏 料理研究家。兵庫県生まれ。父は日本人、母はドイツ人。英国滞在中に料理製菓学校ル・コルドン・ブルーで学ぶ。食だけでなくドイツ生活の経験を踏まえたシンプルライフをテレビや雑誌で発信している。鹿屋市在住。